

第1回海洋観光

海を身近に懇談会

〜日本ヨット発祥の地

「葉山」より海・船の

魅力をお伝えします



あなたの行動が
町を美しくします

～懇談会でのご挨拶～



海事局長

森重 俊也

「海洋観光・海を身近に懇談会」は、国民に海への関心と抱かせ、クルーズ、マリレジャー等の海洋観光を振興させることにより、我が国の海事産業の発展を図ることを目的として設置しました。

海洋観光・海を身近に懇談会は、第1回目を葉山で開催ができ感慨深いものがあります。

今回は、「海洋観光」と「海を身近に」という2つのテーマを設定しています。

「海洋観光」とは、海を四面に囲まれた海洋立国である日本において、今後さらに発展していく上で重要なものであり、「海を身近に」というのは、海事思想の普及として政府・海事関係者・造船所などと官民協力して取り組んできたテーマですが、2つは隣り合わせで色々な意味の可能性があり今回繋げてテーマとしています。

海洋立国とは、国民が自分たちの力で船を造り動かすことができ、また、それを使って人や物を運ぶ、あるいは水産業で魚を採ったりすることを生業とし、憩い・楽しむことができる力を持った国だと思います。

我が国は、四面を海に囲まれた環境であるので、人々の目線の中や、生活の中には海があり、「山は海の恋人」とも呼ばれ、日本全体として関係があります。

また、身近な海だけではなく、旅で訪れ楽しむ海や、仕事場である海もあるが、人々の日常のなかに海が意識されるようにしていきたいものです。

今回お集まりの皆様は、色々な分野からお集まりいただいておりますので、それぞれの専門分野から新しいヒントが生まれ、光るものができればと考えています。海を身近に感じながら、楽しみながら進めることができる懇談会にしていきたいと思っていますのでよろしくお願い致します。



『葉山マリナーの海の魅力』

株式会社 葉山マリナー 代表取締役社長

長岡 紀雄



当社は、会社登録上は、「株式会社葉山マリナー」としており、わざわざ伸ばすようにこだわりを持って商業登記しています。

設立は、1963年9月18日、開業は1964年7月18日。最初は、東京オリンピックのセーリング競技の関係者の宿泊施設としてオープンしたが、東京オリンピックを終え、その年の12月からは、ホテルとしてオープンし、今年で50周年を迎えました。

事業内容は、ヨット、モーターボートの保管、クルージング、レンタルボート、その他にマリナー内のテナント等の管理を行っています。

主な取り組みとしては、当社所有の55フィートのモータークルーザー「ベイクルーズ葉山」を用いて、裕次郎灯台を經由し、江ノ島を周遊する50分で、気軽に湘南の海を体験できる観光クルージングを行っています。その他にクルージングに簡単に取り組みめる時間チャーターも行っています。

また、小型船舶免許取得&更新・失効講習の会場を葉山マリナーとして、マリンロイヤルライセンスと組んで実施しています。

イベントとしては、毎月第2土曜日あたりに葉山マリナージャズクルーズ、今年の8月に野外で大規模のジャズクルーズ IN 葉山を実施しました。また、ヨット・ボートクラブのオーナーが中心になってやっている葉山マリナーサマーフェスタを実施して、地域の方々にも無料開放で参加してもらうなど、地域密着型でやっています。その他にも5カ国大使館のレガッタを行うなど、国際交流も盛んに行っています。

最後に、葉山マリナー50周年記念相模湾合同クルージングをオーナーとマリナースタッフの合同クルージングを企画しており、当社では、ヨット・ボートを預かるだけではなく、オーナーと楽しみながら、企画を通して葉山マリナーの定置オーナーを増やしていきたいと考えています。



株式会社 葉山マリナー 長岡様からのコメントは、「海洋観光・海を身近に懇談会」Facebook 動画にて配信中！！



「ヨットやボートの等の面白さ及び魅力」

株式会社 舵社 常務取締役・編集局長

田久保 雅己

昭和7年創刊の伝統を誇るヨット・モーターの専門月刊誌「KAZI」を取り扱っています。戦時中に4年間だけ休刊していましたが、今月号で932号になります。私は、約40年携わっています。

私自身、大学時代からヨットに乗っており、ヨットの雑誌社に入って、業界の現状や、海外30カ国以上に行き海外のヨット状況を見てきましたが、日本はまだまだヨット・ボートは普及していないと感じます。

さて、ヨットの魅力についてですが、3つあります。

1つ目は、「究極のエコな乗り物」であること、帆に風を受けて走るので、燃料がかかることはありません。

2つ目は、「世界中どこにでも行ける」。風力だけなので、無料で7つの海どこにでも行けますし、現時点でも、20組程の日本人がヨットで世界中を回っています。

3つ目は、「自然との一体感を味わえる」。特にディンギーは海が近く、海と一体になれます。

夜にヨットを走らせると、海に星が反射し、海と空が一体となれます。その中を舳先が波を切る「ざざーっ」という音だけを聞きながら走ります。こういう体験をすると、他では味わうことのできない魅力の虜になります。

風力で海の上を滑るように走る感覚は、言葉で言っても分からないので体験することが重要です。ヨットの爽快感を体験してもらうために、さまざまな無料体験のことを発信しています（720キャンペーンなど）。

また、ボートの魅力ですが、ヨットの3つの魅力の内のエコではないこと以外は、他は同じです。ヨットのように、難しい操船技術は必要なく、ハンドル操作も車と同じです。

海で遊ぶ・仕事するという事は危険が伴います。気象海象の急変によっては、生命に関わる場面にも遭遇します。海上でトラブルに遭遇しても周囲から援助は受けられません。故にすべては自己責任です。安全を心がけた上で、さまざまな難関を乗り越える力を養う。そういった意味では、ヨットやボートに乗ることによって、自己責任を教育する確な場です。



株式会社 舵社 田久保様からのコメントは、「海洋観光・海を身近に懇談会」Facebook 動画にて配信中！！

意見交換



懇談会会場：葉山マリーナ ハーバーヤード

長岡社長・田久保委員の話、ヨットでクルージングの体験を踏まえ、それぞれ自己紹介や感想等

(楓委員)



私は、JTB パブリッシングで、るるぶや時刻表等に携わっています。以前、るるぶで「日本すみずみ海の旅」を作ったことがあります。当社は山に関するガイドブックが多く、今まで海に関する出版物のラインナップがあまりありませんでした。これを機に新しく海に関して勉強させていただきたいと思います。

田久保委員へ質問ですが、ヨットやボートがエコで安いということですが、ヨットやボートに関して決して安いといったイメージが湧きません。初期費用に関しては決して安くないのではないのでしょうか。

(田久保委員)

ヨットやボートの初期費用は確かに高いですが、共同で所有している方が結構います。私もモーターボートを6人の仲間で、それぞれ約8万円払って50万円の中古ボートを共同所有していたことがあります。船の置き場代も高いというイメージがありますが、公営のマリーナなど場所によりますが、月1万8千円程度で、燃料代も1日乗ったとしても8千円程度で、数人で割ればそんなに高くありません。



また、外国の例だと、フランスではパリ在住の年収6百万円クラスの世帯が家族で楽しめるような制度となっています。

高いというイメージはありますが、工夫次第では手軽に安く済ませる方法があります。もちろん、タイガーウッズの船のように百数十億円という豪華なクルーザーもあることも事実です。

(なぐも委員)



私の本業は、バスガイドですが、今はバスガイドではなく、バスガイドの育成、新潟県内テレビのレポート、講演（おもてなしセミナー、観光ガイドのやり方等）の仕事をしています。

新潟県の中でも海側に住んでいますが、仕事の領域が山側だったりするので、海へはあまり行く機会がないので、本日、海に出させていただき、良い体験になりました。海に対しては、未知の領域の部分が多いので、勉強させていただきます。

(矢ヶ崎委員)

なぐも委員のように海側に住んでいて、何かしら接点があるけれど、海に距離感を感じているような方の視点は、今後重要になってくると思います。

(仁田委員)

当社の瀬戸内海汽船では、広島と松山の間を高速船、フェリー、レストラン船を使い、島めぐり等の観光の仕事を行っています。

子供の頃からヨットには親しんできましたが、ヨットはすごく可能性があり、子供の教育にも良いと思います。私自身、子供の頃からマナー、自然の怖さ、5分前集合等の規律、船長の言葉は絶対等を教えていただき、良い経験になりました。

また、現代人で不眠症に悩む方がたくさんいると思いますが、ヨットに乗り目を浴びて爽快感を感じ、波に揺られる際に足腰を使うので、ぐっすり眠れると聞いていますので、治療（セラピー）としての利用も良いと思います。



(矢ヶ崎委員)

女子の中では、体幹トレーニングが流行っており、ヨットに乗り、波に揺られている中で、体幹がトレーニングされるということは、新しい発見と可能性を感じられました。

(守谷委員)



当社の東京都観光汽船では、隅田川にて観光船を運航しています。

船の位置づけは、日本全国でも違うように感じます。例えば、瀬戸内海では生活に密着していて馴染みがありますが、東京では屋形船ぐらいしか馴染みがないと思います。それは、首都高を建設して川を覆ってしまったたり、他の交通体系を充実させた結果、船は後回しになったのではないかと思います。

また、ヨットもお金がかからない乗り物ですが、隅田川の方でも480円や780円で観光船に乗ることができます。人々がもう少し気軽に乗れる方法を考えていかなければと考えています。

(星野委員)

私は、元々体育専門で、ずっと野外活動に携わっています。

明治大学では、経営学部にも所属しており、主に自然環境の中で行われる野外運動を研究のテーマとしています。

また、日本野外教育学会の理事を務めていますが、今年、野外教育学会の大会が東京海洋大学で開催され、その際、海に関する研究をされている方に聞いた話ですが、子供達が学校で海洋教育を受ける機会が減っているらしく、それは、個人的には全国的に学校にプールが出来始めた頃から、子供達の海や川離れが始まったのではないかと思います。現在、プールの管理運営体制が見直しされているので、子供達に海や川に関心を持ってもらう良いチャンスなのではないかと思っています。

教育の分野で発言させていただき、色々勉強させていただければと思います。



(林委員)



私は、漁港の計画、漁場の開発、それと漁村振興に携わっています。漁村の振興を図るため都市漁村交流ということで、都会の方々を漁村に招き、漁村の魅力を展開しています。その際に、子供達が漁村にやってきて、体験漁業をやる時には、非日常の体験ということで、生き生きして楽しんでいます。

また、伊豆に行った際の話ですが、夜に虫取り網を持って船で海へ行き、灯りに集まってくるトビウオの習性を利用して、飛んで来るところを網ですくうといった体験をしました。このようなものも海の一つの魅力だと思います。

海の魅力は、たくさんあると思いますので、水産という立場で発言させていただければと思います。

(矢ヶ崎委員)



最後に私の方からですが、北海道の羽幌町の網元の家で生まれて、家には漁船が数隻あり、子供の頃から、捕れた魚の出荷の手伝い等をしていました。その後、進学に伴い東京へ出てきてからは、海の魅力を語る発信力が落ちていて感じます。日本海側の海は非常に荒れて人の命を奪う、しかしながら、父を見ているとそれが当たり前だとしていて、そういった海の男といったものも知られていけば、接点ができて良いと思います。

～意見交換～

（海事局桜井次長）

先程、田久保委員から皆で船を保有するといった話がありましたが、日本では個人所有が多いのですか、それとも、欧米のように皆でシェアしたりするのが主流なのですか。



（田久保委員）

共同オーナーは、大学時代にヨットのチームを組んでいた場合であったり、仲が良くなければ、中々上手くいきません。

しかしながら、それ以外で日本独自の制度でマリクラブという会員制のシステムがあります。これは、ある一定の金額を払いマリクラブの会員になり、そのマリクラブが船を何隻か買って、それを会員でシェアするというもので、自分が乗りたい船を事前に予約すれば、いつでも乗れるといったシステムになっています。

また、それとは別で、レンタルボートクラブというものもあります。これは、ヤマハが始めた Sea-Style というもので、会員になって会員証を持参すれば、全国 140 ヶ所でボートのレンタルが可能となっているので、旅先や出張先でも気軽に海に出ることができます。

（楓委員）

今の若い20代世代は、シェアすることに抵抗感がなくなってきました。

シェアの発想が経済効率を求めていることかもしれませんが、他人と一緒にいることへの抵抗感が減ってきている印象があります。

（海事局桜井次長）

一人では自信がないけれど、誰か相棒がいればヨットに乗ってみようという考えの方もいるのではないかと思います。

（矢ヶ崎委員）

若い人たちは、実にスマートにシェアして、お互いに情報交換し、メリットを引き出します。その割に距離感も取るなど、賢い発想だと思います。

（仁田委員）

海外のリゾート地では、クルーズ船に乗る感覚で手ぶらでヨットに乗り、船長とお客の世話する人も同乗し、数日間かけて島めぐりを楽しむヨットのチャータークルーズのシステムが結構あります。この仕組みが日本では、なかなか無いように思います。海外で行っている業者を日本に誘致し、そのようなネットワークを作るのも良いと思います。また、そのようなネットワークを作ることで、海外からも日本へ気軽に来れるようになると思います。

(なぐも委員)

海は、誰でも世代を問わずに楽しめるにもかかわらず、ある一部の熱狂的な人達だけが楽しんでいる感覚があります。

また、海へ魚釣りに行った際に釣れた魚を料理してくれる等のお世話をしてくれる人や、船長さんやアテンドをしてくれる人が同乗してくれるなど、困ったことを解消してくれるような人がいれば非常に良いと思います。



(矢ヶ崎委員)

海水浴で泳ぐことは、季節が限られますが、ヨットやボートは四季それぞれの楽しみ方を味わえると思います。海でも楽しめるし、上陸した先でも楽しさが広がると思います。

(楓委員)

旅行業の立場的としては、例えば葉山港を出てクルーズをして、佐島港に入っ
て帰ることができるなど、お客様に色々なメニューを提供できることができればチャンスが広がると思います。

(守谷委員)

ヨットに乗ると足腰の筋肉を使い適度な疲労感から不眠症に良いという話があったり、海は精神的に落ち着かせる効果があると言われていたりますが、海や船に興味がない方に対して、医療面の効果という別目線で引き込ませるところがあって非常に興味深いものがあります。

(田久保委員)

セーリングセラピーというのがありますが、潮風に当たって、海の上を走るだけで体に良いと言われていました。以前、海洋冒険家の堀江謙一さんと対談したのですが、その際にヨットで世界一周してる間は、運動不足にならないのかと聞いたところ、「常に波で揺られて筋肉が動いているから、運動不足にはならない」と言われていました。



また、チャータークルーズの話ですが、ヨーロッパの方達は、歴史・食に興味がある方が多いので、その点を踏まえて日本でもやっていたら非常に良いと思います。

(矢ヶ崎委員)

大人達の海との接点のハードルを下げようという話しができましたが、子供たちについてはどうでしょうか。

（星野委員）

日本人の子供たちの体験学習というのは、現在減ってきており、学校でも是非取り組んでいただくように、文部科学省の委員会等で積極的に発言しています。

また、海の場合は、安全性の問題もあり、かつて盛んだった遠泳等も多少見直されていますが減っています。

今後は、子供達を海に連れ出すアクセスの問題について、親を説得するのか、親を巻き込むか、若しくは漁協さんに体験学習を受け入れていただくなど、方法は沢山あると思いますので、今後の話題にできればと思います。

（林委員）

漁村も漁業の体験学習等を受け入れる等色々やろうとされていますが、例えば、天候の悪い日にはどうしたらよいのか等の問題一つとっても、対応が難しくプログラム作りに疲れてしまったという意見が出ています。



子供たちを海に引き込むには、学校の先生がどれだけ海に魅力を感じてくれるかだと思いますが、学校の先生から伺った話では、学校には海の情報が伝わってこないというので、海の情報をもっと発信して欲しいと聞いています。

今日、ヨットに初めて乗りましたが、エンジンを切ったときの自然を五感で感じるという素晴らしさを先生たちにも知ってほしいと思います。

（なぐも委員）

私の娘の学校は、海から3キロ圏内にありますが、地域を学ぶ授業はあり、海も地域の中に入っていると思いますが、海を学ぶ授業は特段ありません。

また、新潟県には、佐渡島という有名な島があるにもかかわらず、修学旅行では会津若松へずっと行って行っていました。しかしながら、原発の放射能問題の際にだけ、佐渡島に変更されており、少し残念な気がしました。

海と学校教育と観光などを上手くコラボレーションしてやっていければ一番良いと感じます。

（林委員）

高知県の漁村の話ですが、野球はできるが泳げない子がたくさんいます。

（星野委員）

以前は、都会と田舎の子供達では違う遊びをしていましたが、現在は、都会も田舎も室内で同じような遊びをしています。

（仁田委員）

滋賀県は、県が所有している県民の船があります。小学5年生になると、この船に乗って琵琶湖の水質調査の体験をやるなどして、琵琶湖の水を守ろうという取り組みを行っています。

(矢ヶ崎委員)

多くの意見をいただきましたので、最後に簡単にまとめさせていただきます。

現在の子供たちには、田舎と都会に関係なく、海が存在は、非日常ということになっていると感じました。

残念な事実ですが、冷静に見て、今後何ができるかを考えるかが大事だと思いました。

しかしながら、希望や可能性はたくさんあり、時間を厳守する等の規律面での教育的な効果、不眠等の予防のサーリングセラピー等の医療面での意外な海の御利益や効果があると感じました。

また、遊び方に関しては、たくさんありますが、初心者に対して分かりやすく教えていただける方との接点が必要と思います。これから多くの方と海との接点を作っていければと思いますが、体験乗船、客としての乗船、シェアして乗船するなど、うまく段階が導かれていければ一番良いと思いますし、シェアという点では、若い世代の抵抗感がなくなって、ある意味賢い消費者になっています。

この様なトレンドをうまく使って、今後やっていいければと思います。

今後も、この懇談会の場で色々な意見交換を交わしていただきたいと思います。



(森重海事局長)

本日は、葉山マリナーさんにはご協力頂き感謝申し上げます。